

【第1会場：4S08教室（3）】

団体名：NPO 法人日本語・教科学習支援ネット

<団体紹介>

2005年2月に、来日後、日本語が不自由で学校生活や地域になじめない子どもの日本語支援や、学校の中でも、級友たちとともに学び、共に語り合って健全な成長を遂げられるよう学習支援等をするを目的に設立された団体である。日本語教師、あるいは日本語指導員として日本語を教えている他、地域で日本語や教科の学習支援をする実践者中心で、31名が登録している。

毎週1回夕方、日本語の支援を行いながらも、同じ背景を持つ仲間と交流し励まし合える居場所的な役割も果たす日本語教室を開催してきた。また、日本での生活体験の乏しい十代の外国人に、地域のボランティアと交流する機会を設けてきた。

2007～2008年度、それまで中学高校生用にはなかった母語教材「用例付学習語彙5000語」の中国語版、スペイン語版、ポルトガル語版を作成し出版した。

続いて2010～2012年度、「教科につなげる学習語彙・漢字ドリル」の中国語版・スペイン語版・ポルトガル語版等を出版した。これは、母語支援が難しい地方都市でも自律的な学習ができ、学校での学習を終えた後も、日本語のリテラシーを備え、かつ健康で、安全な住みよい社会を作ろうとする意欲と関心が持てる市民になるような進路保障を考えた教材である。現在、当NPOのサイトから自由にダウンロードできるpdfの「英語版学習語彙6000語」を作成中で、より多くの学習者に届けることを考えている。

文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業における日本語教育のための学習教材作成においては、2012年は、日本・神奈川県内の地理や、生活をより快適にするためのアクセス方法を知るための県内の国際交流協会や、その地域の伝統工芸・祭、特産物を紹介する教材を作成し、昨年は、日本の社会事情や問題を考える教材をやさしい日本語で作し、誰にとってもやさしい共生社会をつくるための課題をともに考えた。

また、日本語学習及び教科学習支援のボランティア養成講座や日本語指導者研修講座など開催したり、地域の支援者を対象にした研修を実施したりするなどして、指導者やボランティアの方々を知識の共有と技術の向上を目指して、活動してきた。そのネットワークを通して、地域のボランティア研修等に講師を派遣する機会が増え、地域、学校、外国人生活者をつなぐ役割も担い、地域のネットワーク作りに貢献してきた。



事業実施概要

事業名称	定住する外国にルーツを持つ子どもたちの生活支援事業
地域の課題	地域の外国につながる子ども達が、さまざまな事情から、十分に学びきれないまま社会に出て行く。これを社会的損失としないために、彼らが理解できる教材を準備するとともに、子ども達の状況を理解し、実践力を持つ指導者の養成が必要である。
事業の目的	横浜市及び近隣の外国につながる子ども達が、日本語力の向上と共に社会の一員として自立していく為の知識を得ること。また、支援に必要な知識や有用なスキルや教材等のアイデアを得、子どもたちの目線に立った支援ができる指導者を養成する。
事業の概要	<p>日本語教室の実施</p>
	<p>名称：「未来へつなぐ」日本語を母語としない子どもの日本語教室 目的：外国につながる子どもが、社会の中で自立できるようにする。 対象：横浜市及び近隣に在住する日本語を母語としない中学生。 人数：23人（主な出身・国籍：中国） 時間：週1回×2時間（全35回） 内容：各テーマ（環境・食料・税金・人権）について、講師が作成した教材や国語の教科書等で日本について学びつつ日本語を伸ばす内容。</p>
	<p>日本語教育を行う人材の養成・研修の実施</p>
	<p>名称：「外国人日本語指導者とともに学ぶ日本語指導研修講座」 目的：必要な知識を得、子ども達の目線に立った支援ができる指導者を養成すること 対象：横浜市とその近隣で日本語・教科支援に携わる日本人及び外国人日本語指導者 時間：32時間（全10回） 人数：67人（出身・国籍：中国5人，韓国2人，日本60人） 内容：実践で役に立つスキルや教材などのアイデアを理論面・実践面双方から学ぶ。</p>
事業の概要	<p>日本語教育のための学習教材の作成</p>
	<p>名称：「地球の未来とわたしたち」 目的：世界的、社会的な事柄を日本語で理解し、社会の一員として地域の人々と共に、自立してよりよい生活を求める努力ができるようにする。 対象：外国につながる小学校高学年から中学生およびその保護者 構成：身近な問題（税金）から、世界をも含んだ問題（環境問題、食糧問題）等地球を視野に入れたトピックを取り上げた。</p>
成果と課題	講座では、年少者日本語教育の研究者の視点を入れて研修内容を吟味し、児童生徒のきめ細やかな指導に求められるものを加えたことで、子どもたちに日本で生きていくために必要な知識や学力や高めるサポートができるようになったというアンケート回答が数多く寄せられた。作成した教材による日本語教室では、多文化共生社会の担い手である彼らにとって重要な知識を提供することができたようである。
発表者から一言	知識の基礎を築き、心身の成長に重要な中高校生時代に言葉の壁という負荷が無いよう、自力で学べる教材の作成に取り組んできた。エッセンスの詰まった教材であるので、生徒や保護者、支援者の方々に有効活用していただければ幸いである。